

森林基幹道「大尾大日山線」の紹介

静岡県 西部農林事務所 森林経営課

本林道は県西部に位置し、森町の町道向井天方太田川線の大鳥居を起点とし、掛川市の大尾山（顕光寺）を経て、森町と島田市の行政境（尾根沿い）を通り森町の大日山（金剛院）を経て、浜松市天竜区の春埜山（大光寺）を横に見ながら南東部に位置する農道熊切南部線を終点とする 3 市 1 町にまたがる総延長 34.991 km の広域的林道です。

県営工事として平成 10 年度に工事着手し、令和 6 年度の完成を目指して、開設工事を進めています。本路線は広域にわたるため、急峻な地形、軟弱な地質を避け切れず、難工事となった場所もあります。その都度最適な工法を模索し、工事を進めて参りました。

利用区域 2,113ha の森林は、スギ・ヒノキの人工林が 8 割を占め、豊富な木材資源を有しており、利用区域内で森林経営計画に基づく沿線森林の集約化が進んでいます。写真のような高性能林業機械による木材の生産性の向上は集約化の効果といえます。

地域の水源等を守るための森林管理や林業経営用の道路として重要な道路であり、完成のあかつきには、地域間の交通ネットワークが形成され、経済・文化の交流が促進するとともに、歴史・文化的施設を結ぶ観光道路としての活用も期待されています。

